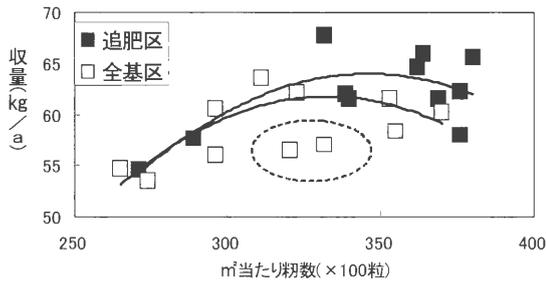


事項	水稲品種「ゆめあかり」の代かき同時土中点播栽培における収量安定化の生育目標												
ねらい	代かき同時土中点播栽培の収量安定化のための生育診断法について検討し、幼穂形成期における生育目標値を設定したので、指導上の参考に供する。												
指導参考内容	<p>1 m²当たり最適籾数 収量安定化のためのm²当たり最適籾数は、次の理由により、3.2万粒である。 (1) 追肥栽培(追肥区)では3.5万粒、全量基肥栽培(全基区)では3.3万粒前後で収量が最も高くなる。 (2) 倒伏の発生は、両栽培法とも3.2万粒以下では少ない。</p> <p>2 m²当たり最適籾数(3.2万粒)を得るための幼穂形成期の生育目標値 (1) m²当たり籾数は、両栽培法とも幼穂形成期の葉色(SPAD値)及び草丈より予測が可能である。 (2) m²当たり最適籾数(3.2万粒)を得るための幼穂形成期の生育目標値は以下のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">表 幼穂形成期における生育目標値</p> <table border="1" data-bbox="408 936 1198 1064"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>追肥栽培</th> <th>全量基肥栽培</th> <th>(参考)移植栽培</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>葉色(SPAD値)</td> <td>36</td> <td>37</td> <td>38～40</td> </tr> <tr> <td>草丈(cm)</td> <td>54</td> <td>59</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 移植栽培の数値は最適籾数が3.7万粒(津軽中央地帯)</p> <p>3 玄米中タンパク質含有率 m²当たり最適籾数での玄米中タンパク質含有率は、追肥栽培が7.2%、全量基肥栽培が7.4%で、両栽培法では大差ない。</p>	項目	追肥栽培	全量基肥栽培	(参考)移植栽培	葉色(SPAD値)	36	37	38～40	草丈(cm)	54	59	—
項目	追肥栽培	全量基肥栽培	(参考)移植栽培										
葉色(SPAD値)	36	37	38～40										
草丈(cm)	54	59	—										
期待される効果	水稲代かき同時土中点播栽培での生育及び収量の安定化が図られる。												
利用上の注意事項	<p>1 苗立本数が70～120本/m²での結果である。</p> <p>2 全量基肥栽培では、被覆尿素複合肥料(てまいらず)かこれと同程度の肥効を有する肥効調節型肥料を使用する。</p> <p>3 生育診断については生育目標値のほか、生育の遅速、気象の推移等を考慮して総合的に判断し、生育が過剰と判断された場合は、追肥を中止したり、中干しを長めに行うなどの対策を講ずる。</p>												
担当	青森県農業試験場 環境部 対象地域 湛水直播栽培対象地域												
発表文献等	平成12～14年度 青森県農業試験場試験成績概要集												

【根拠となった主要な試験結果】



- (注) 1 土壤条件：表層腐植質多湿黒ボク土
 2 供試品種：ゆめあかり
 3 追肥区：基肥及び追肥とも速効性肥料
 追肥は幼穂形成期 (0.2Ng/a)
 全基区：被覆尿素複合肥料(てまいらず、LP-70
 50%)の全量基肥施肥
 4 破線内のデータは除外

図1 m²当たり粒数と収量
 (平成13～14年 青森農試)

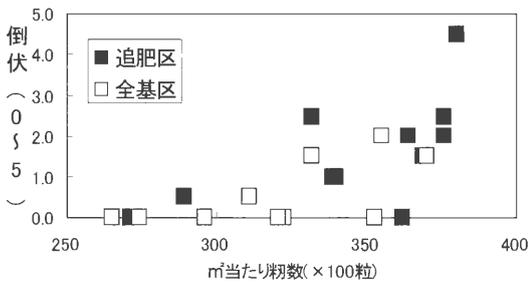


図2 m²当たり粒数と倒伏
 (平成13～14年 青森農試)

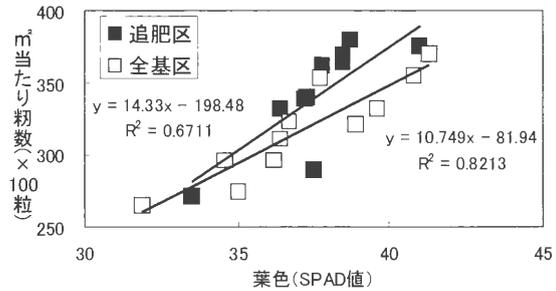


図3 幼穂形成期の葉色 (SPAD値) と m² 当たり粒数
 (平成13～14年 青森農試)

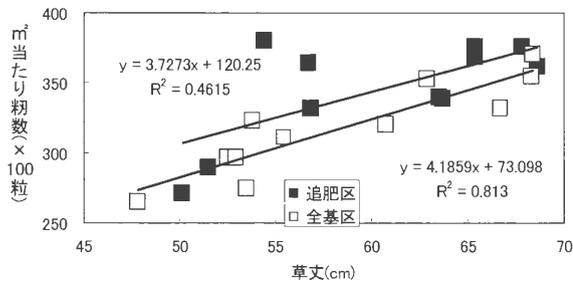


図4 幼穂形成期の草丈と m² 当たり粒数
 (平成13～14年 青森農試)

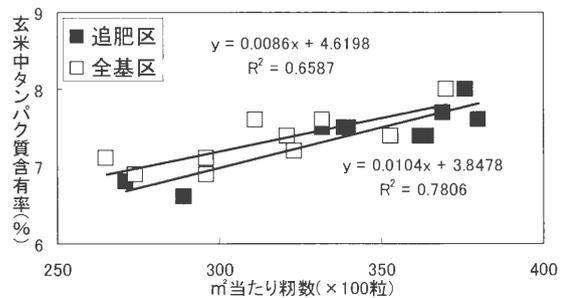


図5 m² 当たり粒数と玄米中タンパク質含有率
 (平成13～14年 青森農試)